

## ★私の意見

# 隣人の発見

久山 康

（関西学院理事長・院長）



昨年突如として日本を襲つた石油危機は、晴天の霹靂のようになつて国民の心を驚かせた。敗戦後久しく忘れていた無資源国日本の恐ろしい実体が、一挙に私たちの前にあらわとなつたからである。石油エネルギーを基幹として高度成長を遂げた日本の経済は、石油供給国の意志一つで壊滅状態に陥ることが明らかとなつた。この状況は昭和初頭の危機的状況とよく似ている。當時植民地をもたず、資源の乏しかつた日本、ドイツ、イタリアは、世界のブロック経済の圧迫のなかで、経済的危機に直面した。日本はこの窮状を中国や東南アジアへの武力による進出によつて切り抜けようとした。日本は當時米英とともに世界三大強国の一つとして、強大な軍事力を所有していたからである。しかし武力による隣国への侵略は悲惨な結果に終わった。

戦後日本はこれに懲りて、軍事力の代りに経済力の増大に力を注いできた。幸いなことに戦後は資源が、いくらでも自由に輸入でき、そのため日本は無資源の国であるという不安を忘れてきた。むしろ日本人の教育水準の高さや勤勉が日本を技術革新の時代の世界的なチャンピオンにした。しかしてこの経済的発展も資源国との成長によつて障壁にぶつかったのである。

しかもその上に田中首相の東南アジア訪問は、行く人々で学生の激しい反日デモに出会い、日本の経済的進出が別の大きな障壁に直面していることも明らかとなつた。軍事力によつて打破できなかつた問題は、資本や技術の力によつても打開されないことが明確となつてきたのである。私はこういう歴史的実験の結果明らかとなつたのは、日本が他の資源を利用して発展しうるためには、日本人のエゴイズムを捨ててその国のために第一とするという新しいモラルを確立せねばならぬということである。それは「隣人の発見」といつてもよい。最も観念的な原理が最も現実的な原理となりつづあるのである。新しい精神教育の振興ということが、民族の将来を決する問題となつてきたと思う。



## ●三宮の楽しいショッピング・オフィス街への出勤に **末積カーポートビル** 近代的な 立体駐車場 150台OK

近代的な  
立体駐車場  
150台OK



●普通車30分=¥100

スピーディな駐車 親切な応待—

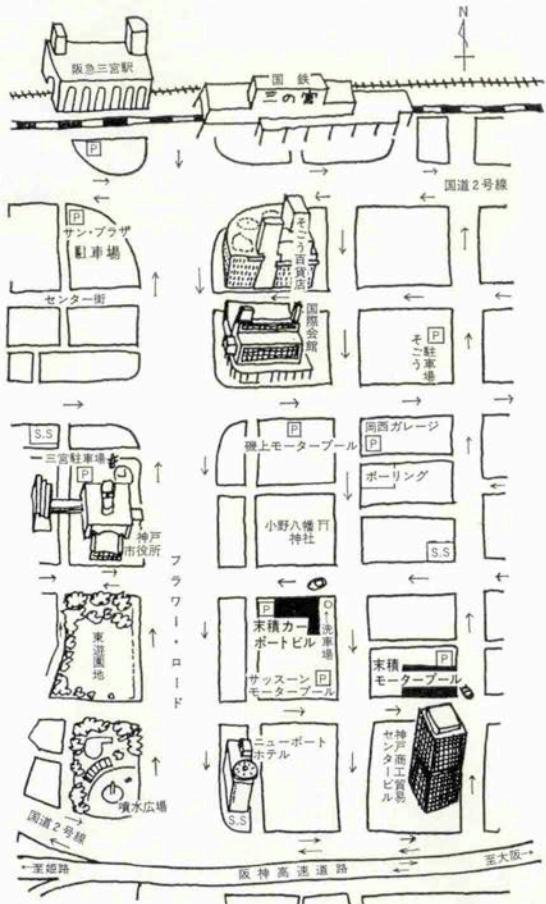
- 冷暖房完備・TV付の  
待ち合い室もあります。
  - あさ8時—よる10時(日・祭日営業)



## 末積株式会社

神戸市東灘区磯辺通4丁目6番地／2

TEL 078 (221) 9 8 8 7





ることのない傷を得て、追われる様にパリを去るのです。パリでの個展も成功とはいはずお金も僅かしか持つていません。もう、そこには夢を結ぶ予地もなかつたでしょう。そして、もう呼び返されることがえないので。事実、一九〇三年彼の地で死ぬのですが、この間数々の傑作を描きます。傷心の中、その絵は謎ともいえる妖しい美しさで、我々を魅了します。彼の絵こそ、誰かによって描かれねばならなかつたのです。

何故なら、行きつくところを知らない現代文明の苦悩の果に、やつと理解するのであろう高度のロマンと夢を、そこに結んでいるよう思えるからです。

## 舞台の "関所"

上月 倫子

（上月倫子バレエ研究会）



舞台芸術といふものは、その瞬間瞬間がやり直しの効かない一回勝負ですから、舞台で踊っている時というのは一種独特の環境にお

かれて東の間に過ぎていく瞬間瞬間に全神経を集中し極度に緊張しているのです。ところが、この舞台に立つ前に、却つてより以上に緊張を覚えるのが「ソデ」といふ所です。舞台に出てしまえば案外度胸がすわって平気になるものですが、ソデという所はどうもけません。本番を目の前に、一度つきりの真剣勝負に失敗は許されないと思う気持から不安にかられ、ただ無事に踊れるようにと祈る気持以外には何の雜念もない緊迫した一瞬で、舞台の上の笑顔とはウラハラに、出の間際にソデで待つてゐる時の心地など、とても良いものとは申せません。しかも舞台に立つには必ず通らねばならない「ソデ」は私にとつては箱根の関所のようないわ存在です。

もう十年も前になりますが、私がまだ谷バレエ団で踊つていた頃には東京以外に度々地方公演があり、そのほとんどが白鳥の湖で、当時の私の役どころというと決つて黒鳥でした。その頃もやはり、公演地の宿で、翌日の舞台のことを考えると早々と緊張してなかなか眠れず、お蒲團に入つても目をパチリあいて、隣りでスヤスヤと眠つてゐる友の寝顔を羨ましそうに眺めながら踊りのことを考えているうちに、いつの間にかもう朝を迎え、そのまま汽車に揺られ

てその日の公演地に移動ということが度々でした。そうしていざ本番となると舞台のソデで出を前にして、生アクリが出たり、行つたばかりのトイレにまた行きたくなつたり、そのまま家へ逃げて帰りたくなつたりしたことさえあります。その頃には、白鳥（オデット）には三回転のフェットも無いしきつとこんなに緊張しないで済むだろうに、とよく思つたものです。そんな時代を超えて、この頃ではソデでもやつと少しは落ち着き、舞台の上で踊ることに悦こびを感じ自分を見出すことが出来るようになつて來たと思つてゐたところに、先頃、その黒鳥のようには緊張しないで済むはずのオデットを踊る機会に恵まれました。ところがどうでしょ——いよいよ第二幕の出番が近づき、ソデに行くと何のことはない、一〇年前とちつとも変わっていません。まるで条件反射のよう心臓がドッキン！ドッキン！と音をたてて。初役の時はとりわけイヤなものなのですが、それにしても「ソデ」というのは未だに最も苦手な所のようです。舞台の度にそんな思いをしながらどうしていつまでも飽きずに踊つているのだろうと思ひますが、結局は「踊ること」が好きなのでしょうね。そしてこの度、好きなばかりに止められ

ないまま二〇年余も続けて来た  
「踊り」に対して賞を戴くことが  
出来、これを励みに今後は「関所」  
を笑顔で通つて舞台に立ち、もつ  
と良い踊りを見て頂けるよう努力  
していきたいと、小さな期待に胸  
をふくらませてゐる昨今です。



吉井 順一  
(能楽師)

## 芸の鍛錬 と捨心

此度の授賞は正直に申しまして  
自分自身驚いてゐる次第ですが、  
これが神戸能楽会の発展のための  
礎となれば私としてもこの上もな  
い事だと有難くいただくことにし  
ました。

と申しますのは神戸という土地  
は京都、奈良に次ぐ謡曲の名所、  
旧跡の多い所で、しかも近代的外  
国センスのある恵まれた土地であ  
り、また明朗な神戸人であります  
が、悲しいかな古典的なものに対  
しては余り関心がなさすぎるよう  
に思われます。まして能楽とい  
ことになると我々の世界で無く、

他の国のことのような観念で見ら  
れるようと思われますが、そうで  
なくて最も身近な日本の芸能であ  
ります。先ず日本古来の良さを知  
り、外国の長所を吸収されはと  
していきたいと、小さな期待に胸  
をふくらませてゐる昨今です。

そこで我々能楽師はこの道を追  
究するについてつくづく考えさせ  
られることしばしばです。なぜな  
らば舞台程おそろしい所は無いと  
思うからです。綜合芸術で絶えず  
まわりに気をくばらなくてはなら  
ないし、また自分勝手なことは出  
来ません。すべて約束でなる芸術  
であるが故に、自らそこに「和」  
と云うものが生まれて来るのです  
が、「和」を知るには鍛錬が必要  
です、芸の鍛錬では教えてもらう  
という観念では駄目で、何事も覚  
えよう、悟ろう、という気持があ  
つての鍛錬でなくてはならないの  
です。鍛錬の中には技術が伴うの  
ですが、ある先輩の方のお話で「能  
は技術が90%を占めていてあと10  
%は、能をいかに舞うか」というこ  
とですが、いざ舞うことを考へる  
と90%を占める技術がわずか10%  
にすぎず、後の考へるのが実は90  
%を占めている」ということで  
す。なかなか思い通りには参らな  
いものです。

相当の経験と、鍛錬、演者の良  
識、あらゆるもののが積み重ねられ  
一つのものに成つて舞台に表わさ  
れるのです、そこには「野心」が  
あつては駄目で「捨心」という言  
葉が表現されるのです。見せよう  
という意識を捨て、技術を忘れ、  
自分を忘れ、無に近い心境こそ、  
思うのです。

そこで我々能楽師はこの道を追  
究するについてつくづく考えさせ  
られることしばしばです。なぜな  
らば舞台程おそろしい所は無いと  
思うからです。綜合芸術で絶えず  
まわりに気をくばらなくてはなら  
ないし、また自分勝手なことは出  
来ません。すべて約束でなる芸術  
であるが故に、自らそこに「和」  
と云うものが生まれて来るのです  
が、「和」を知るには鍛錬が必要  
です、芸の鍛錬では教えてもらう  
という観念では駄目で、何事も覚  
えよう、悟ろう、という気持があ  
つての鍛錬でなくてはならないの  
です。鍛錬の中には技術が伴うの  
ですが、ある先輩の方のお話で「能  
は技術が90%を占めていてあと10  
%は、能をいかに舞うか」というこ  
とですが、いざ舞うことを考へる  
と90%を占める技術がわずか10%  
にすぎず、後の考へのが実は90  
%を占めている」ということで  
す。なかなか思い通りには参らな  
いものです。

現在迄歩んで来た道が、今回の授  
賞に結ばれ、また今後の励みと思  
い、尚一層勉強をいたさねばと思  
い肝に銘じております。尚この賞  
も後輩の人々の目標になればこの  
上もなく幸せに思います。

## □ある集いその足あと

アイビー

レジャークラブ

大橋 民明

（アイビー レジャークラブ事務局長）



格好もいさましく、アーチェリー部。

昭和48年の春、一億総レジャーランドは、ブームは止まることを知らない勢いであった。街では神戸まつりの大騒ぎ、ちょうどその頃我がクラブが誕生した。

今までのクラブ活動といえば、職場、学校中心のもの、宗教団体などの集まりがほとんど。とかく何らかの利害、上下の関係がついてまわる。それよりも、ヨーロッパにあると聞くパブ（市民クラブ）

のようない、庶民が自由に集まつて仲間を呼びながらどんどん発展していく、何一つ拘束のない、開放的な、人生を楽しむ人（ホモ）ルーデンス）の集まりを夢みて、若い人数名、少し昔の若い人三名が語らい「自分達で企画して遊ぼうじゃないか」ということになつた。それぞれが仲間に呼びかけて三十名位の人が集まり、以後、毎月第三日曜日には、次々とプランが出され、活動しては失敗と成功とをくり返している。

第一回活動から、サイクリング、フォークとダンス、一泊海水浴、琵琶湖バレー、木曽路一泊旅行etc。

会員数も増え、月一回の活動ではものたりないという声が出て、毎週何かやりたい人が集まつての「部」が生まれた。まず、アーチェリー部が誕生。ミニサイズの練習場と初心者用弓具も整え、きちがいのごとくよく動いている。野球部（アイビークラブ）は球場不足に悩みながらも、今年港都リーグに入り、七連敗という輝かしい連敗記録を更新しながら、おもしろ楽しく頑張っている。バトミントン部は、毎日曜日夕方から西代体育館で七名の部員がラケットを

習に脱落者も出てただ今休憩中だが、残つた者はひそかに力をたくわえている。その他計画中のものが、卓球、バスケット、落語、ダンス、音楽グループ、柔道など。ところで、今までの道を歩んでき、我々の悩みも出てきた。一つは、職場も年代も何もかも違う人の集団だけに、リーダーや世話役の負担が大きく、連絡や集会は大変な仕事になるということ。もう一つは、ものすごく熱心な人の集団（部）と、何となく面白そなという気持でクラブに入った人達との間のギャップである。

最後にクラブの思わぬ効用といえば、今までまったく知らなかつた人、また、極く表面的にしか知らなかつた人と、利害関係、上下関係を越えて、つき合うことがいかに楽しいか、を知つたことである。あくまで遊びが目的だから、集会解散は自由、それだけに、集まつたらそれは本当の、自由意志であるということ。だから、明日解散になるかもしれない。あるいは、会員も増え、もつともつと発展していくかもしれない。ホモルーデンスの集まりを夢みるだけでは終らないようにしたいとは思つていてる。

■アイビー レジャークラブ事務局

兵庫区塚本通七丁目三一五  
喫茶アイビー内

55-14133

家事の合い間にオリエンタルホテルの料理を研修して下さい  
お仕事の合い間に

## オリエンタルホテル 料理教室

49年春組ただいま募集中

普通科 （週一回） { 月・金 10:00～12:30  
月・金 14:00～16:30

研究科 { 火・水 10:00～13:00  
木 13:30～16:30

くわしいことは教室事務所へ  
お問い合わせください。  
(ホテル地下1階 331-8111)

株式会社

# オリエンタルホテル

神戸市生田区京町25



サンテレビ奥さまタイムのワンポイントクッキングで活躍中の料理長

# ひるプレ出演

田辺聖子

（作家）

え・たかはし もう

（漫画家）

私は毎日、昼食のときNHKのニュースに引きつづき、「ひるのプレゼント」を見ている。面白いときはそのままだが、面白くないときはチャンネルを切りかかる。

切りかかるのは私ではなく、亭主おつちさんである。だから、面白いか、面白くないかをきめるのも彼である。私はといえば、あてがい扶持で満足する女なんだ。亭主でもお金でも。いわんや、テレビ番組に於ておや、である。

尤も、私は、たべるのにかなり熱心な方でもあるから、昼食を無我夢中で頬ばつていて、テレビは、この際何が映っていてもいい、ということもある。

その「ひるプレ」に出て下さい、といつてきた。

ひるプレはせいぜい三十分なので、往復の時間を入れても知れていますと思いつ、「いいですよ」といつたのが運のつき、これが実に大変な大事業な

だ。

第一、何をやるかをきめるのが大変。その週は、一週間ずっとNHK大阪の制作で大阪の作家が登場することになっている。作家なんて、書いたものを読むもので、テレビなんぞで見るものとちがう。それを見られるものに仕組もうというのだからNHKのディレクターたちも汗を絞っていた。彼らはいつた。「何か、かねてから望みだったものはありませんか、テレビで踊ってみたいとか、こういう扮装してみたいとか、こんな人と、こうすることをやりたい、とか……」

「べつに」

私はキヨトン、として答えた。彼らはさらに考え、「いつも何をしていますか、仕事のほかは」

「飲んで寝てます」

われながら可愛いげない答えだが、事実だから



仕方ない。ディレクターは、うーむと鉛筆を投じ、腕組みしてしばし瞑想にふけり、

「飲んだらスグ寝ますか、バタンキュー？」

「いえ、バタンと倒れるまでの間、歌をうたいます」

彼らの眼はドラキュラの如く、らんらんと輝いた。彼らは叫んでテープルを叩いた。

「よろし、それでいきましょう。飲み仲間は誰ですか？」

かくて、かわいそうにも氣の毒にも、元永定正画伯と高橋孟画伯が、ドラキュラの犠牲として引っぱり出されたのである。

そうして私はおどろいたのだが、朝の九時に迎えの車が来て、十時にはスタジオに入る。すんなり家へ帰つたら午後二時、ひるの三十分といつてもいへんな時間を食うもので、この日ゲストに来て頂いた元永サンや孟サン、山本素石氏（ツチノコ探険隊長）桂小文枝師匠たちにも、えらい目にあわせたわけで申しわけない。實にテレビといふものは時間を使う。

そうしてリハーサルが延々とつづき、三回予行演習をさせられる。お酒を飲む話のときに元永サンと孟サンが席に加わつて下さつて、孟サンのかいだマンガが大うつしとなり、私の酔態をテレビでオール日本にひろめようという、悪どい趣向である。

ところでリハーサルの合間に、ディレクターは私のそばに近より、もう何べんめかの懇願をした。

「やつぱり、歌、うとうてもらえませんか。ちよつとでも、あきませんか。『明治一代女』と『隅田川』、いつも歌いはるそうですが」「ダメです」と私は断固、拒否した。私は内心、もし歌つたら、野坂昭如氏に続く「歌う作家」第二号としてL.P.盤を出せるのではないかと自負しているのだが、あんまりそれでは人心を攪乱すると思うので、控えたのだ。

ところが、孟サンと司会のアナウンサーはひそかに打ち合せをして、本番で孟サンは歌い出したのである。この人ふしきな人で、お酒飲まなくて、私はツイ、「隅田川」のセリフの所をしゃべつてしまつた。あ、と思つてもうおそい。私の舌は孟サンの歌のあとはオーティックにうごく仕掛けになつてゐるのだ。（やつた、やつたア）と司会者やディレクターはうれしそうにしていた。

とうとう私はひつかつちやつたのである。それは元永サンのニコニコした雰囲気や孟サンのマンガのせいである。（ちなみにいうと、孟サンがN.H.K.に提出したくだんのマンガをテレビで見て、東京の友人連は驚倒していた。あんまりうまいので、今まで氣やすく孟サン孟サン、といつていたのを反省したそうだ。これからは孟先生と呼びますと恐縮していた）家へ帰つてすぐ、孟サンから電話があつた。

「おっちゃん、テレビ見たか、どないいうとつた？」

おっちゃんはたまたまそのときトイレに入つていたが、チャンネルを切りかえなかつたと大声でいつた。いつものようにニュースのあとどこかへ廻そそと手をのばしたが、ついそのまま見たそ

# 坂道——わが小説の神戸——

三枝 和子

〔作家〕

え・石阪 春生

〔洋画家〕

私は余程神戸という街が好きらしい。好きらしい、とひとごとのように言うのは、最近まで自覚がなかつたからである。

二、三年前、ある編集者から、「三枝さんの小説にはよく神戸が出て来ますね。好きなんですか」と質問された。私は作品のなかで「神戸」と、固有名詞を使つたことはほとんどない。それでいて読んだ人にはつきりそれと分るのは、神戸がやはり強い個性のある都市だからだろう。

い日だった。

歩きながら、どういうきつかけからか、私は次

以前『珈琲館木曜社』という作品を構想しているときのことだった。摩耶埠頭に自殺した詩人の死体があがるところから書き出そうと思っていた。

しかしながら雾聞気がきまらなかつた。国際ホテルに二日ばかり泊つて、摩耶埠頭へ出掛けていつはメモを取つたりしたが、遂にメモはメモに過ぎなくて小説の言葉を見つけることはできなかつた。

仕方なくその作品をあきらめて半年くらい経つたある日、別の用事で人に会う約束があり、夜までの時間が二、三時間空いたので思い立つて北野町の坂道を散歩することにした。春先の風の冷たい日だった。



かたまつて来たのである。作品の雰囲気がかたまつて来ると作品の構想も動きはじめる。私は坂道の途中で立ち停まり、自分の内部に、いま湧いたばかりの想念をしつかりと確認しようとした。

これで書ける、と私は思った。会社では「詩人」と侮蔑的に綽名されている「彼」が、無為の夕暮に、ゆつくりと北野町の坂道を上っていく姿を、そのとき私は見たのである。

道はそこから急に傾斜が強くなつた。石畳は御影石でなく、砂利をコンクリートで固めた八十畳と四十畳くらいの比較的大きな長方形だ。畠と畠のあいだの二畳くらいの隙間には、驚くほど鮮かな緑の草が芽ぶいていた。四月のはじめ、寒い日で、桜の蕾は、ふくらみをふいに停めてしまつたようで、梢がぼうっと薄あかく煙つてゐるだけで、花はまだ一つも咲いていなかつた。

彼は立ち停まつた。坂道はうねうねと曲つてゐるので、傾斜に従つて建てられた住宅が、行手を塞いでいるように見える。彼は、胸の前に迫つて来る建物の壁を押しわけて、登り坂を歩いていく。建物がこちらに向つて降つて来るような感覚。

K市は、いま、静かに傾いている。

陽が沈むには、まだ幾らかの時間がある。港には光の断片が散在し、造船所のクレーンが逆光に濃い骨格を際立たせている。微かに息づいているK市……。彼は、自分の魂がK市のペルスペクティブに従つて、ゆつくりと解き放た

れていくのを感じている。物悲しい自由。しかも、非常に透明な至福の瞬間。

こういうときは展望のよく利くスカイラウンジでも立ち寄つて、まだ陽が沈まないから、甘い柔らかな酒……チンザノロックでも、一杯嗜むといいのだ。

彼は歩き出す。しかしチンザノロックを飲みには行かない。緩慢に、もと来た道を引き返しはじめる。折り重なつて足許にまつわりついて来る建物のなかへ、陥ちこむような感覚に捉われながら坂道を下つていく。本当に彼は、何もすることがないのだ。

それから私の小説の登場人物である「彼」は、坂道を下り、家へ帰りたくない、などと思ひながら街をさ迷い、心ならずも新入社員歓迎パーティーの喧騒のなかへまぎれ入つていくのだが、当の作者の私は、その夕暮を優雅に過した。「レストラン北野クラブ」の、よく拭き磨かれた長いカウントバーの前に坐つて「彼」の飲まなかつたチンザノロックのグラスを傾けたのである。

眼をあげれば、総硝子張りの視野のなかに、神戸の港が音もなく存在していた。酒の燭が硝子窓の下、眼の高さよりも低い場所に、ラベルをこちら向けにびっしり並べられてゐるのが印象的であつた。もみあげの長い三十前のバーテンさんが、夜会用なのか、大きなガラスの器に酒を調合していた。私はほんやりと、陽の沈むまでその場所に居た。小説の時間と、現実の時間が、もつれあい、まじりあいながら、そのときの私の意識のなかを流れていた。

# 坂道のつぶやき

小泉 八重子

（俳人）

え・石阪

春生

（洋画家）



布引の滝は想像通りしんと沈んだ静寂の中につた。都心から思いもかけぬ近さで、忽然と滝音の世界へ入れるということは、他に例を見ないと言われている通り、新神戸駅を裏へ一步抜けば

もう滝への登り口であった。

たおやかな雌滝、水量があつたらと惜しまれる白晉の雄滝、半円型に落ちる鼓滝とそれらをつなぐ石段や遊歩道、こんな風致に恵まれながらさびれた感じが否めないのは、やはり神戸の繁栄からとり残されているのであらうか。

人は遠く遙かなものに憧れる。前面に海、後に連山、と美しい自然と風物に恵まれている神戸は美への感受性が優れ、山水への美感覺が研かれると共に、それに対して贅沢にもなつてくるだろうと思う。

「犬の糞をそのままにしないで下さい」という

未婚者と灯の暮れ方の滝纏う

赤尾兜子

山道の立て札を見て、この優雅な滝を取り巻く山道を、朝夕の犬の散歩道にできる神戸の贅沢さを思った。

一条の光のように流れ続ける滝を見ながら、この句を思い出していた。未婚者といふ薄暮、灯がうつる滝、たゆたうようなロマンと情感があるが、その情感へのセーブも感じられる。滝を「纏う」というのだからこの滝は、纏々と落下する瀑布ではなく、この布引のようひそやかになまめいた滝がふさわしいだろう。展望台まで登つて行くと、意外にも四、五人の男性グループが占領していて「ねえちゃん、いらっしゃい……」と言われ展望を諦めて早々に山を下りる。

「六申の山なみは蓑裾をひいて海にくずれこんでいる。神戸の町はそのなだらかなスカートの上にのっかっているようで、地形的にも、なんとなくなまめいたところがある。だがそのなまめかしさにしてもいたって開放的なのだ」

かつて陳舜臣氏は著書『神戸というまち』のなかで、そのユニークな神戸観をこんなふうに綴つておられるが、北野町から山本通りとスカートの一つの襞の中を歩きながら、写真でしか知らぬ異人館を、現在の潇洒なマンションの建物とだぶらせておいて見る。異人館地帯と言われたこの町並は、神戸の歩みのまぎれもない一つの顔の持主なのだ。

日本最初のモスクワと称された回教寺院の尖塔とドームが、目の下に謎めいて招いている。ゆるやかな坂道を歩いていると後からタクシーが徐行してきて「乗りますか」との合図のクラクションを短く鳴らして通り過ぎた。

〈生田の森〉を見てから市役所南、新装の東遊園地に入る。車では通るが入るのは初めてである。

冬木の人肌「東公園」の彫り深く 八重子

ふりそそぐ陽の下で散策の人々の顔は明るく、

冬の樹木にふと人肌のぬくもりがあるようだ。ここまで来れば港のざわめきが聞えるようだ。港が呼んでいるとそわそわする。埠頭に立つと潮を含んだ強い風が髪を乱す。遠大なもの、巨大なもの前に立つた時、殆んどの人はなべて同じような感慨を抱くと言われるが、その「普遍的な感動」を私も同じように味わう。言いかえれば

ごく平凡な人間ということで、こんな時すぐ無条件に感動する自分に呆れるが、やはり見知らぬ国々へ続く波々と、幻影のように視界から消えゆく白い船には弱い。

髪染めてタンカーハは過ぐ桃の花 赤尾兜子

明るい海とタンカーハ。髪染めてがエキゾチックな情感を説いて、つぶやくように書かれた「桃の花」の匂やかな色彩を与える。具象的に、心象的に春の神戸を感じさせる句と思う。港にはもう一面の重油くさい男っぽい仕事場としての顔が、つて、確かに摩耶埠頭には、女が用もなくうろつくことを拒む荒々しさが感じられた。私にはポートタワーの展望台から望遠鏡で、マストや船室を拡大して眺める位が似合つていそうだ。

塔眼鏡軽き目まいの罫粟の芯 八重子

ポートアイランドのことは聞いていたが、SF映画のような円や四角のものがもう沢山建っていて玩具のようなトラックが並ぶように走っている。私も赤い神戸大橋を渡りたいな、と子供のように思った。

陽がやや衰えてきた。一部分だけ駆け足で観いた神戸……神戸に夜が訪れる。

さむき顔もち逆光神戸歩きゆく 八重子

フランクフルトの  
白い冠  
上品なバターケーキです。



フランクフルタークランツ

ドイツ菓子  
*Fuerlein's*  
ユーハイム

\*このマークの店でお求め下さい

本三宮店 三宮生田神社前 TEL(331)1694  
本三宮店 三宮大丸旧市電筋 TEL(331)2101  
さんちか店 三宮地下街スウィーツタウン内 TEL(391)3539  
貿易センタービル店 三宮貿易センタービル地下1階 TEL(251)0139

刀劍 古美術  
書画 骨董



鎧 素掛鎧当世具足（江戸末期）

¥1,000,000

鑑定 買入  
研白鞘 拙御承処

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 古 美 剣 術 葵  
骨

¥650 TEL 078-351-0081

# バランスあるファッションを

山田 夏子 〈服飾評論家・「ユニヴエルシテ・ド・ラ・モード」紙主宰〉  
リラ・ルリーブル 〈「ユニヴエルシテ・ド・ラ・モード」紙パリ支局員〉  
福富 芳美 〈神戸ドレスメーカー女学院々長〉

## ★季節の色を大切に

リラ 神戸はママの懐しい故郷なのね。

山田 一つのときに諫訪山のあたりに住んでいましてね。その頃の写真をみるとハイカラな帽子を被っていてね。神戸って、昔から、すっごく、ハイカラな町だったのね。

福富 神戸には幾つ位までいらっしゃったの。

山田 数え年で七つか八つね。私は町といえば北には山が、南には海がと考へたでしょ。だから東京へ行くと途方にくれちゃってね。どっちが南だろうと。(笑) 神戸に来ると色んな想い出が落ちているね。楽しいわ。父につれられてよく居留地へ行つたんです。この間も、今のおールスタイルのあたりを歩いていたら、昔のままのたたずまいでね。懐しかつたわ。私の想い出のなかにはズットと神戸というものがあるのね。でも、元町は変わつたわねえ。私には昔のイメージがあるのね……。

二十代は主人とズットとフランス。戦争中はサイゴンにいました。戦争が終つて日本へ帰つて来て初めて銀座へ行つたとき、女人の人の服装を見てビックリしたの。和服だったのが、みんな洋服になつていてたでしょ。しかも、その洋服が何ともいえないものでね……。

福富 いつ帰つてらしたの。

山田 昭和二十一年頃ね。銀座へ見に行つたのは二十三年ね。それはひどかったの。みんな夜のような服装をしてるの。そこで私は日本の女人たちに服装のことを教えないといけないと痛感し、今の仕事を始めたんです。

リラ 私は八つまでフランスだったんですよ。

福富 パリつて何度も嫌にならないわね。行くたびに違つたところがあるのよね。幾ら見ても飽きないわ。

本当の素朴さと、本当の人間らしさ——それが魅力なのよ。一見汚れたような感じのなかにいいものがあるの。

昭和二十年代にアメリカから行つたんですけど、そのときは色をみたいと思ってね。アメリカ人は、赤とか、日本にない色を着ていたのね。その土地その土地の色があるのよ。パリへ入つたとき、色がアメリカとは全然違つて、ステキでね。それも田舎の色なのに。ああ、色が違うなあ、とそのときつくづく感じたわ。

山田 その色のお話はステキだわ。

福富 フランスには流行色がないと思うのよ。季節季節の色がそのまま流行色になつているのね。

山田 私の子供の頃は日本にも季節の色があつたわね。着物にも季節の色と柄があつてね。だから、季節外れの着物は着れないのよ。今はそうじゃないわね。

福富 着物が洋服化してしまつて……。でも、着物が洋服化したというのはコンプレックスなんだわ。着物は着



山田 夏子さん



リラ・ルリーブルさん

★TOPをわきまえたファッショントピック

福富 インドの人がサリーを昔のままに着ていてるみたいですね。洋服は洋服として別のものとしておいておくべきだわ。着物を洋服化するなんて……。

山田 おかしいのよ。着物の模様もごっちゃになってしまってるし。

山田 おいておくべきよね。

福富 おととし、十年振りに日本へ帰って来たけれど、人間が何と多いんだろうと一番に感じてね。パリでは、

リラ おととし、十年振りに日本へ帰って来たけれど、人間が何と多いんだろうと一番に感じてね。パリでは、

福富 私はフランス式で教えられたんですが、今の日本の立体裁断はアメリカから来ているのよ。既製服の型紙を作るにはあれでいいでしようけどね。フランスでは、絵を習うときにも先生が絵を描かせて、いいとか悪いとかいうけれど、絵の描き方は教えないのね。一見頼りな

リラ 人間があまりもまれないから大きな気持ちで仕事ができるのじゃないですか。コセコセしてないですね。

福富 日本ではあんまり人間が多いから、誰か他の人がやつて成功したものを安易に踏襲して自分が沈まないようにならねばならないという風潮があるのよ。

山田 そうね。人間が少ない方がいいものができるような気がするわね。

リラ それに日本人は何であれ物事をキツチリと決めてからなくちや済まないのね。理屈っぽいし、融通がきかない。キツチリ線を引いて、こうだ、と決めないと気に入らない。立体裁断にしても同じなのよ。フランスだと、こういうときには、こうしますが、こうもできますよと教えるのね。ところが、日本では、こうしなくちゃいけないのでよ。ここを、この角度でこう切つ……と教えないと納得しない。

朝、バスター・ミナルがどんなにこんでいても十五人位並んでるのがせいぜいだけれど、東京なんか三十人はズーッと並んでいるのね。

福富 でも、神戸は空いているわよ。

山田 でも、フランスはこれ位よ。これ位でいいわ。今日も東京から神戸に来て、静かない町だなあつて思つたわ。この雰囲気を崩さないように、このままおいてもらいたいわね。

福富 でも、神戸が発展するためには人がバーッといるような町にならないとね……。

リラ だけど、多勢人においても、いいものができないから何にもならないでしょう。

山田 あなたからパリの人がどうしていいものをつくっているのか少しお話し頂戴よ。



福芳富美さん

いようにみえるけれど、このやり方だと、その人は伸びるのよね。だから、フランスでは本当に才能のある人が育つのかね。アメリカでは、こういうときには、こういう具合に描けと教えるの。まるで製図。日本は何でもアメリカのシステムを取り入れているからダメなのねえ。

リラ 一つの洋服を彫刻のようにつくり上げて行くのがフランスのやり方なのよ。

福富 そうそう。だからうちではサシは真ツ直ぐに線を引く以外には使うなどいってるのよ。製図から覚えたらダメなのよ。

リラ 日本人はとにかく道理の通ったものでないと気が済まないのね。小学校での教え方についても日本は初期につめすぎるのよ。教えすぎよ。だから萎縮しちゃつて伸びない。フランスは、根本的な基礎だけを教えるだけなのね。基本的なものを頭に入れるだけなので片輪にはならないわけね。あとは自分で伸びるの。

福富 服装にしても私がアメリカにいた頃は、今のようにジーパンやパンツで学校へ行けなかつたのよ。あれは仕事着なのね。普通の家庭の子供はドレスアップしないと学校へ行けないのよ。ところが日本では、ジーパンやパンツをはいて遊んでいる子供しか見てないから、ああ、アメリカは自分で何でもいいんだ、ということで勝手に解釈しているのね。

でも、最近、ある服飾関係の短大が、これからはジー

パンやパンタロンで登校するのはやめましょうと申し合わせたらいいです。ファッショントレーナーが自ら正しいTPOを守りましょうというわけね。

リラ それが常識なのよ。そういうことをフランス人は小さい頃から知っているのね。

山田 場所とか時間とかによって着てはいけないものが決っているのよ。

リラ だから、場違いな服装がないのでみていても調和がとれて綺麗なんですね。

山田 どんなに流行が変わっても基本的なものは全然変わらないんですよ。

福富 日本人は右だといえばバーッと右、左だといえばバーッと左でしょう。ファッショントレーナーにしても、既製服がいっぱい出てきたら、自分では縫わなくていいのよ、とにかく洋裁学校に誰も来ないような雰囲気になっちゃう。(笑) たとえば、服飾の仕事をしている人たちですら、パリへ行つてもオートクチュールを見たいといつてたのにね。あれはデザインの源泉なのに。どうしてこう軽薄なんでしょうね。

リラ 流行の上つ面ぱっかりを覚えて日本でやるわけね。山田 たとえば、パリのラテン区域で着るようなエスカルゴの服があるでしょう。これを夏のまつりなんかに着て、海辺を裸足で駆けるととても綺麗なのね。ところがこれをそのまま町中で着たりするのね。

福富 そうなのよ。それを着る雰囲気なんか考えないで流行だとなると何でもかんでも入れちゃうのね。山田 だから私は新聞をつくつたり、ワアワアいつたりしてやつてるのよ。(笑) でも、どんなにいつたってみんな分らないのよね。

## ★フランスのとれた神戸ファッショントレーナーを目指そう

福富 今、神戸はファッショントレーナーにとって、町も

綺麗になり、ファッショニ性のある会社も沢山できてきて、神戸はファッショニ性が高い高いといわれているのですが、このまで伸びて行つていいものかどうか、といふことでお話を伺いたいのですが。

山田 パリのように神戸へ人を呼ぶことを考へないといけないわ。神戸の人だけに売つても意味がないんじゃない。フランスは楽しい雰囲気をもつてゐるから外国人がみんな来て、物を買はでしよう。

福富 でも、雰囲気だけで、何も買はうものがなかつたら。

山田 だから、それをこれからつくるんでしよう。まず、人を呼ぶだけの雰囲気をつくり上げな、ちゃいけない。

福富 私は売るものをつくるなくちゃいけないと……。

山田 勿論、売るものをつくるなくちゃいけない。でもつくつても人が来なけりやしうがないでしよう。

福富 だから神戸独自のいい品物をつくるなくちゃいけない。同じワンドースでも神戸のものは着やすい。

山田 そういうものを沢山つくつていかないとダメなのよ。

山田 確かに、そうね。

福富 パリが何故あんなに魅力があるかというと、それはカッティングとか作りの問題ですね。たとえば、一本のベルトをつくるにしてもコツコツとつくる。そんな職人は日本にはいないのね。

山田 最近はフランスでもいなくなりつつありますね。福富 そういう稀少価値のあるもの、神戸のものはいいねえと人にいわれ、分つてもらえるものをつくつて行きたいのよ。

山田 そらそろですわ。数は少なくてもいいから、素晴らしいものをつくつたらいいのよね。

福富 パリでは既製服でも縫製の面から時間をどれだけ短縮し、どういうやり方で仕上げようかということを常に研究してゐるわね。

福富 だから、それが神戸にも必要なんじゃないかといふたいわけよ。

リラ デザイン画を描く人はただ夢を描くだけで、それを仕上げるのは立体裁断をやる人たちなのね。

山田 それが日本では正しく認識されてないのね。

福富 日本ではデザイナーが最高で、縫うのは下端だ

という考え方があるわけよ。

山田 そうなのよね。でも、それは神戸だけじゃなく、東京も同じことよ。

福富 勿論、そうですが、だけど、神戸は東京や大阪と同じではダメなのよ。

リラ パリにはそういう仕上げに優れた人がいるから素晴らしいものができるのよね。たとえば、イタリアの生地やモードはいいとよく聞くんですが、実は、フランスまでデザインを買いに来るわけね。加工はやすくついてイタリアでやるのです。だから、イタリアモードと俗にいわれているものはフランスから来たものなのね。

東京にもフランスの会社からバターンを買って来て、それを参考にしてうちはやりますと誇らしげにいつてゐる会社がありますね。そこで私はいつたんですよ。フラン

スの会社の人は全体のバランスを考へてつくつてゐるのだから、袖と襟だけを部分的に使つただけじゃ変なものができますよ。全体をそのままにして使つて頂かないと何にもならないでしよう、とね。部分だけを参考にするのはおかしいのよね。

福富 絵だけ描いてこれがうちのデザインですといつてみたり、また、それでいいと思つてゐる消費者がいるけれども、そういう消費者について行つてはいけないのです。むしろ、消費者の先を行かないとダメなんですよ。

リラ 洋服にはバランスがあるでしよう。

山田 それが一番大切なのよ。

リラ ミニになろうがロングになろうがみんな自分の体形のことを考へて、着るべきかどうかを決め、モードも第一にバランスをよくすることを考えるべきなんですよ。

山田 神戸もその方向を目指して欲しいですね。



# 高分子凝集剤

諸岡 博熊  
（阪神外貿埠頭公團工務部長）

一般に港湾の埋立地造成にはポンプ式浚渫船を使用する。すなわちポンプで海底の土砂を吸い込み、送砂管を通じて土砂を海水で圧送、埋立地で吹き出して土砂を放出し土地を造成する。余水は埋立区域外に放流する。送砂管の吹き出し口付近では、粗い砂利、砂が堆積し、泥質は余水に含まれてほとんど地域外に流出する。このため、埋立造成地域外の周辺の海を濁水で汚染して公害を起こしている。神戸港では、山土を閑開式のバージで埋め立てているため、この問題は発生していない。

このような厄介物扱いされるいわゆる泥といふものは、自然の冲積作用で海底にたまつたものである。ところが水中の懸濁物質である泥は、凝集沈降する性質をもつていて、これは電解質の作用によつて生じることが知られていた。したがつて人為的に凝集剤を懸濁物質に添加してやれば、自然の凝集現象をより早く促進することができるのではないかとの考え方で凝集剤の開発が研究進められていた。

一般に港湾の埋立地造成にはポンプ式浚渫船を使用する。すなわちポンプで海底の土砂を吸い込み、送砂管を通じて土砂を海水で圧送、埋立地で吹き出して土砂を放出し土地を造成する。余水は埋立区域外に放流する。送砂管の吹

き出し口付近では、粗い砂利、砂が堆積し、泥質は余水に含まれてほとんど地域外に流出する。このため、埋立造成地域外の周辺の海を濁水で汚染して公害を起こしている。神戸港では、山土を閑開式のバージで埋め立てているため、この問題は発生していない。

この高分子凝集剤をポンプ式浚渫工事の際、吹き出し口で余水に添加してやると、凝集が促進され、濁水や泥水がきれいに澄んでくる。その上、海底に沈積している有機的浮遊汚泥や有害重金属を凝集させる作用をもつため、これらを海底に凝集させておいて、後に掘り出して地域外の処分地にもついていくことが可能となってきた。

懸濁した微細粒子は水中で電気的に荷電しているから、粒子は互に反発する性質をもち凝集しない。これを電気的に中和させると結合することとなる。中和のためには、反対電荷の電解質を添加すればよい。ところが、高分子凝集剤は中和作用するばかりでなく、

分類		物質名
重合度	イオン性	
低重合度 (M.W.約 1,000— 数万)	アニオン カチオン	アルキレン酸ナトリウム、CMC—ナトリウム塩、 水溶性アニリン樹脂塩酸塩、ポリチオ尿素塩酸塩、 水溶性カチオン化ミニ樹脂等。
高重合度 (M.W.約 数十万— 千数百万)	アニオン カチオン	ノニオン 「ぐん粉、ゼラチン」、水溶性尿素樹脂等。
	ノニオン	ポリアクリル酸ナトリウム、ポリアクリルアミド部分加水分解物等。
	アニオン カチオン	ポリビニルビリジン塩酸塩、ポリエチレンイミン、 ポリアクリルアミドカチオン変性物等。
	ノニオン	ポリアクリルアミド、ポリエチレンオキシド、 ポリプロビレンオキシド等。

\* アニオン系——(○)に荷電したポリマー  
カチオン系——(+)に荷電したポリマー  
ノニオン系——電荷を帯びていない中性のポリマー

ここ数年来脚光を浴びてきた凝集剤に、ポリアクリルアミド系高分子物質がある。

この高分子凝集剤をポンプ式浚渫工事の際、吹き出し口で余水に添加してやると、凝集が促進され、濁水や泥水がきれいに澄んでくる。その上、海底に沈積している有機的浮遊汚泥や有害重金属を凝集させる作用をもつため、これらを海底に凝集させておいて、後に掘り出して地域外の処分地にもついていくことが可能となってきた。

懸濁した微細粒子は水中で電気的に荷電しているから、粒子は互に反発する性質をもち凝集しない。これを電気的に中和させると結合することとなる。中和のためには、反対電荷の電解質を添加すればよい。ところが、高分子凝集剤は中和作用するばかりでなく、

さらに、懸濁粒子中の粗大な分散粒子相互間を架橋し、吸着させる作用を発生するので、凝集が一段と促進されることとなる。

凝集剤は、その有するイオン性によって分類され、さらに無機系か有機系に分けられ表のとおりである。そのうちポリアクリルアミド系凝集剤が製造が容易で価格も安定し、取扱いも簡単なため最も広範囲に使用されはじめている。

港湾工事で公害の発生を防止し環境を保全するために凝集剤が有効であることが注目されだしてい

る。

凝集剤を利用した工法としては二重構造工法（埋立地域を区画し初めての区画でポンプから土砂を放する。余水はつぎの区画に流す。初めての区画には砂が堆積する。つぎの区画で余水が流入するところに凝集剤を添加するとその区画に泥がたまる。つぎに、初めての区画にあつた送砂管の吹き口を泥の上に砂が堆積する）。サンドイッチ工法（初めての区画とつぎの区画を交互に繰り返えして吹き出し口を移動すると、砂質、泥質、砂質といったサンドイッチ型に埋立地が造成されていく）。その他、濁水流出防止工法、管内直接注入工法、水中噴射工法、シールド工法などがある。

くらしと貯蓄にひとくふう

TOMORROW!

たしかな明日のために

◆住友信託銀行

もとまち 大丸西向い  
■(078) 321-1131

望月三郎

優

あ  
い  
た  
い  
の  
こ  
と

1981

●4月から利息に税金がかからない「優の  
限度額が三〇〇万円になりました。

「住友の貸付信託」で「優ワク」を活用すれば、たとえば、二〇万円が五年で三〇万三、一〇〇円に。なんと一〇・三一%もの高利回りになります。

(5年もの 現行配当率)

そのうえ、一年以上たてば期間に応じた換金もできるのです。せっかくの「優」と「住友の貸付信託」のもう一割以上の高利回りを、なんとか暮しに生かしたいものです。

